

まちたん ～まちのお宝探検隊～

後世に伝えたい宝物 ～国府編～

国府地域は市の北西部に位置し、宮川と荒城川が流れ、豊かな土地が広がっています。

多くの縄文遺跡や弥生時代の水田の痕跡があり、古代からの人々の暮らしや営みを脈々と受け継いでいます。

日本遺産の構成文化財など数多くの貴重な歴史遺産のほか、一大穀倉地帯ともなっており、優れた農村景観も見られます。

■日本遺産「飛驒匠の技・ひいろ」の源流の地

古くは、国府地域に6カ所もの寺院がありました。「石橋廃寺跡」や「光寿庵跡」の出土瓦には奈良の都の官人が描かれており、国の中央と飛驒匠が交流していたことを伺い知ることができます。また、この交流で培われた飛驒匠の技は、当地の中世寺社建築にも見ることができ



安国寺経蔵内の八角輪蔵

応永15年（1408年）に建立された飛驒地方唯一の国宝建造物である「安国寺経蔵」には、現存する日本最古の「八角輪蔵」があり、600年以上の時を経た今も滑らかに回転します。

また、安国寺近くの荒城川沿いに建つ、同じ室町時代に建立された「荒城神社本殿」「阿多由太神社本殿」「熊野神社本殿」（いずれも国指定重要文化財）は、確かな目で選び抜かれた良質な木材と優れた建築技術がみられ、「飛驒匠」の源流を感じることが出来ます。

■「国府町金蔵獅子」と「荒城神社鉦打獅子舞」



金蔵獅子（広瀬町）

「金蔵獅子」は、飛驒各地に伝承されていますが、広瀬町、上瀬町、金蔵の三地区で伝承される獅子舞は、

その躍動的な演舞や高い品格が評価され、県の重要無形民俗文化財に指定されました。天狗面の男神（金蔵）がお福面の女神（おかめ）と一緒に、苦難の末、田畑を荒らすどう猛な獅子（悪霊の猪）を退治するという物語が劇的に演じられ

ます。

また、かつて荒木郷の総社であった荒城神社には鉦打と獅子舞が伝わります（県指定重要無形民俗文化財）。一般に「鳥毛打」「鬮鶏楽」と呼ばれるこの鉦打ちは、中世この地の地頭であった多好方が伝授したと言い伝えられています。

■美しい自然・名勝

「宇津江四十八滝」は、頂上にある上平滝まで約880mの滝めぐり遊歩道が整備され、急峻な谷あいや数々の滝が水煙をあげて落下するさまなど、四季折々の景色を満喫できます。昭和30年代からキャンプ場なども整備され、公園や温浴施設しづきの湯も楽しめます。

宮川の名勝「あじめ峡」は、高山本線の鉄橋から下流にかけて、高山盆地と古川・国府盆地との高低差が急流となって表れています。平成16年の台風で景色が変わりましたが、いくつもの奇石や、滝、淵が相まって美しい渓谷が見られます。



秋のあじめ峡

「桜野公園」の桜は、南北朝時代末期に吉野山より移植され

たものが始まりといわれ、毎年園内と宮川沿いの約300本が鮮やかに咲きこぼれます。また宮川の対岸にある名張の城山の桜などと合わせ、地域の団体による保護活動が続けられています。

■特色ある農業



上広瀬の飛驒桃

荒城地区などでは、昭和20年代から土地改良により農地が集約化されました。その結果、冷涼な地勢を活かして、良質な米や大麦、そばなどが生産されるようになり、今も美しい田園風景が広がっています。

高冷な気候を活かした野菜栽培や有機栽培も盛んで、焼きなすにするのが特に美味しい「国府なす」などの特色ある伝統野菜も魅力です。

上広瀬地区や瓜栗地区は果樹栽培に適しており、甘くてみずみずしい飛驒桃やりんごが特産です。上広瀬では、早くから生産拡大、高品質化の取り組みが進められ、令和2年には、冷害に強い桃の台木の新品種の開発により、環境大臣表彰を受賞しました。

こころの体温計でストレス度を簡単チェック！
QRコードからアクセス▶

